

特定非営利活動法人 太平洋戦史館

戦史館だより

2023年9月25日発行
 戦史館事務局〒029-4427
 岩手県奥州市衣川陣場下
 41番地 盤オフィス花岡
 編集発行人 花岡千賀子

会長理事 岩淵 宣輝 事務局長 花岡千賀子 ☎0197-52-3000 FAX 0197-52-4575

戦史館会員の皆様、無事にお過ごしでしょうか？「もはや地球温暖化ではなく、地球が沸騰している」という国連事務総長のことばは衝撃でした。すでに地球沸騰の時代に突入したのです。来年以降も災害級の気温が続き、その影響は更に拡大するのでしょうか？

世界各地で戦争なんかしてる場合じゃない！！

この10年間、日本が進む方向は戦争ができる国へ、じわじわと姿を変えてきたようです。特定秘密保護法が強行採決され、「集团的自衛権が抑止力につながる…必要最小限の武力行使…平和のための戦争…」などということばが政治家の口から頻繁に出てくるようになった頃。10年前…2013年～2014年は、戦史館が厚労省から委託された『未送還遺骨情報収集事業』で、パプア州の旧戦場に放置されたままの遺骸を捜索し、現地派遣で得た情報を厚労省に報告し続けた時期です。

“平和のための戦争”にだまされそうになったときは、海外の旧戦場で命を奪われた人々が、今もその地に放置されている現実を忘れないでほしい。迎えに行かなければ…と戦史館は訴え続けてきました。

さらにウクライナ侵攻以降、中国や北朝鮮の脅威、東アジアの危機があおられ、それに便乗するかのようになり、改憲論が盛んになり、軍拡競争が更に進む。防衛費という名の軍事費は、5年間で1.5倍、40兆円に膨らむそうです。核兵器禁止条約に加盟も批准もしていない日本が、『核抑止論』で平和を“語る”なんて“騙り(かたり)”ではないでしょうか？

「忘るまじ 語り継ごう次の世代へ 平和を願うなら避戦の行動を」プラスの国際交流を合言葉に①人命尊重の立場から戦跡調査を続け、戦没者の遺骸捜索、遺骨帰還事業を支援し協力する。②資料の収集、展示、公開を通じて、平和を推進する。これが戦史館活動の方針です。今年第22回総会も、ブレること無く、この方針で進みましょう。

新型コロナウイルス感染症が5類に引き下げられて、日常が戻って来たと言われても、ウイルスが消滅した訳でなく、人が集まる機会が増えたことで、全国各地じわじわ感染者が増加し、現在は第9波だそうです。3年以上の長い蔓延で、今まで総会に実出席していたが、加齢のため困難という会員も増えました。白紙委任だった会員も、はがきで参加できるので、総会に一人ひとりのご意見や日々の様子をお寄せください。この129号が議案書です。前年度活動報告と活動計画、収支報告と収支予算を次頁に記載します。収支数値の通り、収入の不足分を専従役員から借り入れるなど、運営は危機状態です。

なお直近1年間に発行した126~128号も補足資料として再度目を通して頂くことで活動の詳細がわかりやすくなります。戦史館Webで戦史館だよりバックナンバーをPDFで掲載しています。正会員の皆さんには、返信用ハガキを同封しています。議案Ⅰ、議案Ⅱに賛否を記入いただき、ご意見などもお寄せください。10月10日を目安に投函お願いします。

特定非営利活動に係る事業会計収支報告書(※)

2022年度特定非営利活動法人太平洋戦史館 2022年8月1日から2023年7月31日まで

23期収支予算(※) 一般会計

2023年8月1日～2024年7月31日まで

科 目 ・ 摘 要			金 額 (単位:円)		金 額		
I 収 入 の 部	1. 会費収入 ()内は前年度(※)			423,600		390,000	
	正 会員[3,000×130] (135名)	390,000			360,000		
	会報会員[1,200×28] (29名)	33,600			30,000		
	賛助会員[30,000×0] (0)	0			0		
	2. 寄附金収入 (1,477,400)	962,500	962,500		1,250,000	1,250,000	
3. 事業収入(講義、コンパニオン) (317,140)	423,340	423,340		360,000	360,000		
4. 専従役員から借入 (0)	100,000	100,000					
当期収入合計				1,909,440		2,000,000	
II 支 出 の 部	1. 事業費			1,207,741		1,120,000	
	専従者給与 (600,000)	600,000			600,000		
	旅費交通費 (4,600)	7,200			10,000		
	送料通信費 (185,897)	189,693			200,000		
	出版発行費 (70,380)	60,000			60,000		
	調査研究費 (39,468)	44,000			50,000		
	展示館光熱費 (98,956)	91,110			100,000		
	事務消耗品費 (272,888)	215,738			100,000		
	現地協力費 (0)	0			0		
	2. 管理費			806,234		810,000	
	会費・会議費 (30,000)	30,000			30,000		
	施設使用料 (600,000)	600,000			600,000		
	管理諸費 (124,350)	152,016			155,000		
	雑費(郵便送料) (24,372)	22,564			25,000		
	租税公課 (0)	1,654					
3. 借入金返済 (200,000)	0	0		予備費15,647 借入 100,000	15,647 100,000		
当期支出合計				2,013,975		2,045,647	
当期収支差額				▲ 104,535		▲45,647	
前期繰越収支差額				150,182		45,647	
次期繰越収支差額				45,647		0	

議案Ⅰ 2022年度事業報告と収支報告 議案Ⅱ 2023年度事業計画と収支予算

今年3月にパプア州調査に出発する前日、インドネシア教育文化省からストップがかかり、岩淵を除く団員だけで調査派遣が行われたことについては128号に記載しましたが、岩淵の参加を教育文化省が拒否した理由は「イワブチがビアクのコミュニティの不特定多数とトラブルになっている」というもの。7月になって調査を約束してくれた外務省南東アジア二課長から中間報告の電話をいただきました。ジャカルタ出張の機会に信頼できるインドネシア外務省の担当者に来て、詳細を確かめたそうです。その結果、具体的なトラブルの事実は認められず、逆に岩淵が渡航していない時期に、現地でイワブチという名の人物が登場していて、まるでイワブチさんが何人もいるかのよう…」「不特定多数?」についても個人を特定できず、どこから出た話なのか不明のまま。岩淵は現地で「遺骨を持ち帰ると日本人が来なくなるから、遺骨収容はやめてほしい」と関係者に詰め寄られる場面もあるし、戦後賠償が何も無いパプア州で日本政府の代わりにつるし上げられることも度々でした。“本丸”である教育文化省へ辿り着く交渉の道のりは遠い。「来るな!」と言われている岩淵が元気で動けるうちに名誉挽回してほしいと課長にお願いしました。

今年度も毎月推進協会へ日帰り出張を行い、西パプア州ヤカチ・マノクワリ方面へ9月25日に出発する予定の団員に向けてコンサルティング活動を続けていました。

ところが9月12日に突然、派遣中止という知らせが入りました。以前にも同じ経験をしています。2016年2月、同じヤカチ方面で準備手配が全て完了した出発直前、ジャカルタの日本大使館（厚労省から出向している薬剤官がこの任務を担当）の責任感欠如？ 交渉能力不足？ 締め切り感覚無し？ お役所仕事の繰り返しに、またか…やはり…と。

今回中止になった直接の理由は、派遣計画が教育文化省トップまで届いていなかったようですが、またしても血税で高額なキャンセル料が発生し、関係者に多大な迷惑をかけ、遺骨帰還がまた遠のく。今度こそ日本国政府の役人にまともに働いてもらえるよう原因の究明と予防対策を働きかけています。

展示室のリニューアル まだまだ続く

展示資料は、展示を見た人が怒りや哀しみ…憤り…兵士たちの無念に思いを馳せることができるように、名前の刻まれた遺留品や、現場の様子を伝える写真が中心です。分かりやすく、戦史館の理念も伝えたいと、つい盛り沢山になり、解説する岩淵もついつい喋り過ぎてしまうことがまだまだ多く、展示を巡ってあれこれ試行錯誤する日々です。

今回は、一番種類が多いビアク方面の展示の中から『戦没日本人之碑』に関連する資料の紹介。ビアク島1975年、碑の前で行われた合同慰霊祭。写真右端は慰霊団々長で元参議院議員の増田盛氏 岩手県知事を3期務めた増田寛也氏(1951年生まれ)の父上です。増田盛氏は222連隊の小隊長で、中国戦線で負傷して日本へ送還されましたが、南方へ送られた部下たちは、9割以上がビアク島で戦死。



大成丸が1956年に旧戦場をぐるっと回って遺骨収集をしたそのとき、ビアク島では185柱が収容されて茶毘にふされ、その場所に『戦没日本人之碑』が置かれました。この場所は日本軍塹壕跡ではないかと考えられています。

岩手の慰霊団は周囲を捜索することはなかったのでしょうか？ 柵を作ったときはどうだったのでしょうか？



2004年、死者の供養にマティルダさんが苗を植えようと地面を掘ったところ、ゴツツと金属音がして、鉄カブトを被ったままの白骨遺骸が発見されました。写真と共に、この鉄カブト実物は戦史館で展示しています。(驥:碑の柵の回りで遺骸を発見したときの様子)

戦史館見学は『完全予約制』です。予め来館希望日時と人数をお知らせください。1回に対応できるのは1家族あるいは1グループとしているので、密集の心配は無用です。